



Pure 純 No.187 Pacific パ Sep.2016

純パの会会報『純パ』第187号

2016年9月24日発行 / 発行:純パの会

探訪地は「動物園と遊園地」。子供の遠足？ いいや、高尚な大人の歴史探訪！

「第5回パ・リーグ歴史探訪

～八木山球場跡地&八木山ベニーランド巡り～」のご報告

岩河 正剛(東京都福生市) ※写真撮影:岩河正剛・蜷川明男・塚原隆・影山一義

はじめに

おかげさまで毎回ご好評をいただいている「パ・リーグ歴史探訪」。その第5回目を、9月4日(日)の楽天Koboスタジアム宮城(以後、Koboスタ)で行われる合同観戦会の午前中を利用して開催しました。東北地方で初めての開催となる今回の探訪地は、現在は八木山動物公園の敷地の一部となっている八木山球場の跡地と、そこに隣接している八木山ベニーランドの二ヶ所。ともに仙台市の代表的なレジャースポットをフォーカスしました。

ちなみに今回の歴史探訪は、今までとは以下の二点で決定的に違います。それは、

- ・パ・リーグとは直接縁のない野球場跡地である。
- ・野球場でもなく、また野球に直接関係のない場所である。

前回までは「パ・リーグ歴史探訪」というイベント名の通り、すべてパ・リーグが使用していた野球場の跡地やゆかりのある地を探訪してきましたが、今回初めてパ・リーグとしては直接関連のない野球場跡地を巡ることになりました。また野球場ではない&なかった場所(八木山ベニーランド)を巡るのも、もちろん初めて。「パ・リーグ歴史探訪」というイベント名ながら、今回はパ・リーグ色の一番薄い行程となりました。

しかし、八木山球場は、1934年の日米野球の東北地方唯一の舞台となり、来日メンバーだった、あのベーブ・ルースが来日初ホームランをかつ飛ばした伝説の場所であり、また八木山ベニーランドは、現在の東北楽天ゴールデンイーグルスのチャンステーマに非常に深く関わりがあります。なので、ここは、パ・リーグファン、そして野球ファンとしては実はとても貴重な場所なのです。という理由により、今回はこの場所を巡る内容で決定しました。

このように今までとはまったく違った趣向で行われる今回の「パ・リーグ歴史探訪」。さあ、これから杜の都・仙台ならではの探訪地へいざ出発!!

1. 新設の地下鉄に乗って八木山球場跡地へ

(集合場所である)藤崎本館1Fのルイ・ヴィトン前に集まった計12名の参加者で、青葉通一番町駅から新設された仙台市地下鉄東西線に乗車。昨年末に開通したばかりの新線なので、駅も車体も車内もとても新鮮です。10分ほどで最寄り駅&終着駅の八木山動物公園駅に到着後、改札を出て八木山動物公園へ向かいました。八木山球場の跡地は八木山動物公園の敷地の一部になっており、必然的に動物園に入場しなければ探訪が出来ないので、全員で(入場券を購入し)動物園に入場。しかし、



「子どもさんの参加者が一名いますが）“いい年した”大人の集団でズラズラと動物園に入場(しかもその目的は動物を見る事ではない…)。はたから見ると、なんとも異様な光景に見えたかもしれません。いや、どう見られようが、我々は「神聖なる“野球の足跡”を探訪する」という、とても高尚な!文化活動を行っているのですから関係ありません(そう!)。

入場後、これから最初の探訪場所である八木山球場跡地の探訪です!

2. 八木山球場跡地巡り



●八木山動物公園の最寄り駅「八木山動物公園駅」は日本一標高の高い地下鉄の駅なので(?) はしゃいだり、外の景色をながめたり…

八木山球場跡地のある八木山は、元々は旧仙台藩士の共同所有地であり明治時代までは「越路山」と呼ばれていました。その一帯の山を当時、紅、おしろい、小間物を扱っていた豪商「紅久」の4代・八木久兵衛が買収。それ以後「八木山」と呼ばれるようになりました。さらにこの山の開拓を昭和初期から始めたのが、5代・八木久兵衛です。その開拓のうち

の一つが八木山球場の建設でした。私財を投じて建設した球場は1929年に完成。その後は仙台市に寄進され、戦前には仙台というよりも東北地方を代表する野球場として使用されました。

この球場が球史に名を残す事になったのが、1934年の日米野球で東北地方唯一の試合会場となった11月9日の試合。全米チームの一員として参加していた、あの伝説のスーパースター、ベーブ・ルースが、この日ここで来日初ホームランを放ちました(ちなみにこの試合ではもう一本放つ)。これにより八木山球場が「ベーブ・ルースが来日初ホームランを放った球場」として、永遠に球史に刻まれる事になりました。その後は1940年代までは存続していましたが、戦後には閉鎖され、跡地には別の場所にあった動物園をこの場所に移設して、八木山動物公園となりました。という事で、現在の八木山球場跡地はすべて八木山動物公園の一部になって現在に至っています。

新装なった西門から入場後、動物園の敷地を右に向かう曲がりくねった通路を2～3分ほど歩くと、今回一番の目的地であるベーブ・ルース像の前に到着。ここでしばらく時間をとり参加者全員でじっくりと見学しました。

この像の建立に尽力された方が、純パの会の地元会員の吉岡徹也さん。「平和のシンボル」という観点から建立されたそうです(2002年に建立。なお、この時の経緯については2003年3月に発行した会報「純パ」107号にて吉岡徹也さんが執筆されています→11ページ参照)。また、この像のそばには来日初ホームランが落下したポイントを示す看板がありました(これは動物園側が作成)。ベーブ・ルースの像は国内には他にもありますが、このようにバッティングの動きを表した像はここだけです。まさしく、こ



●五代目・八木久兵衛像
(八木山動物公園東門前)



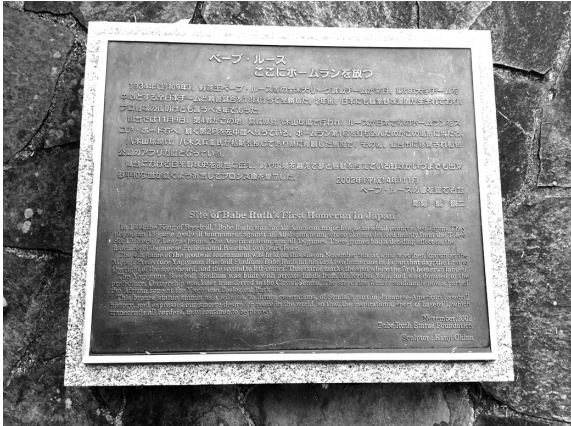
●参加者が園内をめぐります

八木山球場跡地探訪 (ベーブ・ルース像)



●案内図にもベーブ・ルース像が描かれています





●ベーブ・ルース像の説明碑



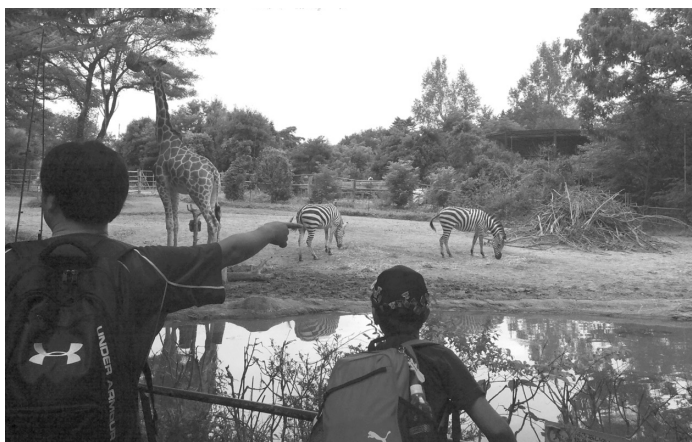
●ベーブ・ルースが
なにか、背中語りかけているような気がする…



●ベーブ・ルースの表情を凝視



●八木山球場のネット裏付近にあたる
爬虫類館の前にて



●シマウマのいるはるか先に
ベーブ・ルース像がある

ここでルース自身が自分の足跡を後世に伝えるように建っています。バッティング後のフォロースルーやそれによって起こったユニフォームのシワの部分を見ても、とても精巧に作られており本当に躍動感溢れています。

ベーブ・ルース像をたっぷりと見学した後は、園内でかつて八木山球場だった位置を確認しながら進みました。ちょうど爬虫類館がある場所が当時のバックネット裏スタンドの位置になりますので、その場所へ。現在は野球場としての痕跡はまったくありませんが、この場所や当時の三塁側スタンドあたりの位置は、なんとなく野球場の面影が残っているように思えます。

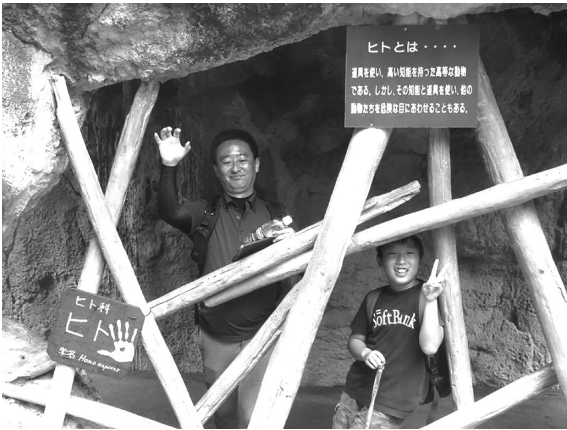
その後は園内を探訪。当然ながらここは動物園なので、様々な動物たちを眺めて楽しみながら進みました。ある程度まわったところで、八木山球場跡地の探訪は終了。次の目的地の八木山ベニーランドへ向かいました。



●イヌワシは、もしかしたら
宮城野原の方にいるみたい？



●同じ名前の野球チームをほうふつさせるような……



●こんな動物(?) もいたりする…



●八木山動物公園・西門前にて

3. 八木山ベニーランド巡り

八木山ベニーランドは1968年に開園。当時から東北地方随一の遊園地として賑わいました。その後も仙台市民及び周辺の住民たちに親しまれ、今では貴重な「昭和の雰囲気醸し出している遊園地」として現在も盛況です。そして、この遊園地はなんといっても、「ヤンヤンヤヤ〜八木山の〜♪」のサビの唄いだしで始まる、あの「八木山ベニーランド」のテーマ曲です。このテーマ曲をイーグルス応援団がチ



ャンステーマの曲としていち早く取り入れました。とてもテンポやリズムの良い曲なので、イーグルスファンはもちろん、その後多くのパ・リーグファンに知られ親しまれる曲となりました。その原曲がこの遊園地のテーマ曲なのです。

そんな八木山ベニーランドに参加者全員で入場。しかし、(子どもさんの参加者が一名いますが)“いい年した”大人の集団でズラズラと遊園地に入場(しかも目的は“観覧車に乗る事以外は”遊園地で遊ぶ事ではない…)。はたから見ると、なんとも異様な光景に見えたでしょう。いや、どう見られようが、我々は「神聖なる“パ・リーグゆかりの地”を探訪する」と



いう、とても高尚な！文化活動を行っているのですから関係ありません(そうそう！)。

入場後は基本的に自由行動ということにしていましたが、自然と全員で園内の一番奥にある大観覧車に向かって行きました。今年からKoboスタのレフトスタンド後方に観覧車が出来たこともあり、皆さん「観覧車」というものにももの見事に吸い寄せられました(笑)。向かう途中、園内に終日流れている、あの「八木山ベニーランドの歌」が耳に入ってきました。すると、思わず口ずさむ参加者が数人(そのまま原曲で唄ったり、歌詞をイーグルスのチャンテに合わせて唄ったり…)。各々自然と曲に合わせて唄いながら進んでいくと、いよいよ園内の最大にして唯一！の目的である大観覧車の前に到着。さすがにKoboスタのものとは違い、高さや風



●観覧車をめざして進む、進む



●八木山ベニーランドの大観覧車



●大観覧車に乗り込みます



●大観覧車から
八木山動物公園の方向をながめる

格！などが違います！

で、さっそく参加者それぞれで乗車。高い位置からベニーランド内はもちろん、隣の八木山動物公園(八木山球場跡地)、さらには仙台市街を見わたして、はるか彼方のコボスタ方面を眺めました(さすがに肉眼では見えませんでした…。)。また、観覧車の中で「八木山ベニーランドの歌」を合唱する、という者も(合唱した人はだあれ??)。約10分ほどの空中散歩が終わると、その後は各々で園内を色々回り、集合時には出入り口に集合してこれでベニーランドの探訪は終了。この後は合同観戦会の行われるコボスタに向かうため八木山動物公園駅に戻りました。



●今回の全行程は無事に終了

参加者の皆さん、朝早くから本当にお疲れ様でした！

4. 探訪地は「動物園と遊園地」…。子どもの遠足？

振り返ってみると、今回訪れた場所は「動物園と遊園地」。まるで幼稚園か小学校の遠足のようなコースでした(なので、皆揃って「リュックと水筒」という格好が似合っていたかも…)。

これだけ見ると、とても「野球関連の歴史探訪をしていた」とは思われなんでしょうし、信じてもらえないでしょう。しかし、野球場の跡地や緑のある場所というのは、このように現在はまったく違った状態になっている事もありますので、今後もこのような場所を訪れるケースもあると思います(まあ、「高尚な歴史探訪」をしているのだから、どんな場所だろうと関係なし!)。今回はある意味、めったにない貴重な経験ができました。今後の歴史探訪はどんな場所に行きましょうかね？

おわりに

最後に今回強く感じたことを二つ。それは「イーグルスは地元をしっかり根付いているなあ」ということと、「今の仙台は平和だなあ」ということです。

今回、八木山ベニーランド内で地元イーグルスの帽子をかぶった子どもたちをたくさん見かけました。「八木山ベニーランドの歌」が流れる園内を、イーグルス帽の子どもたちがあちこちに……。その様を目の当たりにしているうちに強く感じました。地元球団の帽子を被った子どもたちが普通に闊歩するその様子は、まさに平和そのものです。そういえば八木山球場跡地に立つベーブ・ルース像は、「平和



●「八木山ベニーランドテーマソング」のCD。園内で500円で購入

●会報「純パ」107号・吉岡徹也さん執筆「ベーブ・ルース像にかける夢」
(紙面の一部に修正した箇所があります)

Pure 純 No.107 Pacific パ Mar.2003

純パの会会報『純パ』第107号

2003年3月29日発行

発行：純パの会

発行人：大倉 徹也

編集人：吉田由季子

発行所：純パの会 代表・大倉徹也方 印刷：株式会社 印刷クリエイト

ベーブ・ルース像にかける夢 高 徹也

昨年一二月、私は有志とともに、仙台に「ベーブ・ルースの像」を建立した。

像の説明プレートには、末尾に「……野球がいつでも出来る平和な世が続くよう、祈念して建立した」という文言を添えた。

ベーブ・ルース一行が日本にやって来たのは、一九三四年(昭和九年)の秋。ルースが来日したのは、後にも先にもこの一回だけである。

この時の第一〇戦で、弱冠一八歳の澤村栄治が演じた快投はつとに有名である。全日本が〇点に対し全米はわずか一点。大接戦だったこの試合を記念して、静岡・草薙球場前には澤村とルースの像が建っている。

だが、ルースの日本での第一号ホームランとなるとあまり知られていない。実は、一月九日の仙台での第四戦で記録されているのである。

旅の疲れ(?)もあり、それまでホームランのなかったお目当てのベーブ・ルースが、中堅スコア・ボード右へ初のホームラン。さらに第二号を左中間スタンドに打ち込んだ。神宮を真似て造った両翼一〇〇メートルの八木山球場であった。

その八木山球場も、動物園の中に吸収されて、今は跡形もない。

遅ればせながら、その証しを残そうと考えた。地元、仙台出身の“大魔神”佐々木主浩がメジャーで活躍していることもあり、何とかこの日米

野球小史を形に留めようと、一昨年四月、有志八人により準備会を旗揚げした。“言い出しっ屁”の私が、事務局長を仰せつかった。

その後は、肖像権、資金集めなどの難問が怒濤のように押し寄せ、素人集団は難渋した。しかし、多くの野球大好き人間の後押しで、ともかくにも、ルースがホームランを打ち込んだ地点に、彼の等身大のブロンズ像が建つ見通しとなった。

彫像は、市内に建つ「横綱・谷風像」の製作者、翁観二氏が担当。ルース本人もびつくりするであろう「そっくりさん」に仕上がった。

アニバーサリーに当たる昨年の一二月九日、小雪舞う中、ユニフォーム姿の少年達にも参加してもらい除幕式を行った。ここに、日本に於ける二体目のベーブ・ルース像が誕生した。バットを振り切った美しい姿である。私は司会役を務めたが、あふれ出る涙を堪えるのに苦労した。像を見上げる子どもたちに、「野球を通して沢山の夢を抱いて欲しい」と願った。

一九三四年のベーブ・ルース一行の来日が引き金となって、日本にもプロ野球(当時は「職業野球」と呼ばれた)球団が続々と誕生。一九三六年(昭和十一年)二月、「日本職業野球連盟」が結成され、公式戦がスタートした。

いよいよ、今年のプロ野球の開幕である。

●八木山ベニーランドにて

のシンボル」としての観点から建立されました。その願いどおり、今の仙台は野球に関しては平和でした。本当に平和な世の中でなければ日常に野球を楽しむことはできません。今後もこのような平和がずっと続いていくことを、強く願っています。

天気にはいつもどおり恵まれ(天には本当に感謝！感謝！)、色々と初物尽くしであった「第5回パ・リーグ歴史探訪」。今回も無事全行程を終了できました。

また次回の「パ・リーグ歴史探訪」をお楽しみに！



(9月12日)

「第5回パ・リーグ歴史探訪

～八木山球場跡地巡り&八木山ベニーランド巡り～」参加者(敬称略・順不同)

塚原隆、塚原裕子、影山一義、田中尚、中村紀子、土岐英一郎、明石玲子、小池秀明、蜷川明男、鈴木恵美子、鈴木勇太郎、岩河正剛

●ベーブ・ルース像の前で記念撮影



合同観戦 in 仙台に参加して

明石 玲子(東京都杉並区)

合同観戦に参加するのは何回目だろう。かつて観戦場所を知らないで一人で観戦したり、人が集まらなかったのか終盤まで一人だったことがあった。それはいずれも首都圏の話。遠出をするのは今回が2度目である。前はやはり仙台。クリネックススタジアム宮城だった。いまは楽天Koboスタジアム宮城と名称が変わっている。

当日は適当な時間に大宮駅に行き、直近の「やまびこ」に乗車。自由席は空席が多い。停車駅は3つで仙台に着く。ホテルに荷物を預けて炎天下を歩いて球場へ向かう。建造物が増えたという印象。球場正面が狭くなっている。電話連絡がつかず思案に暮れながら歩いたら田中さん、塚原夫妻の姿を発見。合流出来てほっとする。増設されたスタンドが張り出している様に不安を感じながら遊園地に向かい噂の観覧車や遊具を見たりして周囲の景観を大いに楽しんだ。そんな人ごみなのに松葉さん、影山さんと遭遇する。不慣れな球場なのでスムーズに動けない私。黄色いテングロンハットのお兄さんが点在している。目立っていてわかりやすい。

いつも行っている西武プリンスドームとの比較になってしまうが、今回の観戦場所へは階段を上ること10数段でたどり着いた。各段に黄色い線が入っていて歩くのには助かる(西武プリンスドームは上部と下部数段に白線があるだけで途中は緑色が続くので見にくく足元が不安になるものである)。見晴らしのいい席だが、真夏を思わせる日差しが真っ向から照りつける。この時期、東北がまだこんなに暑いなんて想定外でした。特に無防備な膝に容赦なく襲う陽光のきついこと。ジーンズを通して日焼けするのではないかと思うくらいだった。

対ホークス戦が始まる。私にとってはどちらを応援してもいい試合なので気楽なものである。どちらかと言えば優勝目前のホークス寄りである。というのはイーグルスとは下位グループのトップ争いの対象という情けない状態のライバルなのである。ブービーはどちらになるか、である。

応援グッズは入口でもらった「今江」の応援ボードだけ。暑さを除けば景観は悪くない。大きな二面のスクリーンに映し出される映像も西武プリンスドームと比較すると派手である。特にデータ情報の多さが目を引き私には追い切れない。今シーズンから西武プリンスドームもデータ情報が増えてきたがその比ではない。ビジターの選手も大寫しになる。選手の応援歌の歌詞が出るのもうれしい。ライオンズの選手の応援歌やチャンステーマのメロディは知っていても、歌詞となるとほとんど私は知らないと言っている。試合はホークスの貫録勝ちである。お立ち台は千賀投手。1敗しかしてない。

さてその後は懇親会である。正面入り口に集合して写真撮影して移動する。自転車で移動の影山さんを見送り、時間までに現地集合となる。どこをどう歩いたか「おでん三吉」へ全員集合。ゲストも含めて11人。さんまの刺身もあり東北の味覚を味わう。おでんもたっぷり。鉢巻をしたイダコ、「がんばろう東北」ロゴ入りさつま揚げをはじめおでんの定番がぎっしりで満足でした。

会は談論風発、濃く深い野球談議が飛び交う。でも書物や資料での知識が多いようだ。シニアの私は野球の知識としてはともかく、その時代を過ごした者として知っているなど思い

ながら傾聴していた。

2日目は藤崎百貨店のルイ・ヴィトン前に集合。夜、歩いた景色とは違う明るい朝の街である。仙台市営地下鉄東西線で「八木山動物公園前」に移動し入園。ここで蜷川さんも合流。動物を見ながら本日の目的であるベブルース像を見ながら球場について岩河さんから説明を受ける。動物たちもさまざまな姿で過ごしている。ライオンのやる気のない姿は今シーズンのライオンズを象徴する姿だった。一方、トラは動いていたが大阪のトラは元気がない。

隣接した遊園地「ベニーランド」へ移動する。一行のうち2人がシニア料金で入れた。「としまえん」を思わせる遊具があり楽しめそうである。時間の関係で観覧車に全員乗車。100円券を4枚買うのがわかりにくい。100円単位の遊具が多いからだろう。観覧車はかなり動きが早く、乗降に敏捷性が要求される。快晴ではなかったので遠くまでは見えないが高さは十分である。いい思い出になった。

外に出て再び東西線で仙台へ出て、JR仙石線で宮城野原へ向かう。席は昨日とほぼ同じである。今日はシートが白い。どうやら柄になっているようだ。雲の多い天候なので日差しは強くないが照りつけるのには変わりはない。「岡島」の応援ボードをもらう。

この試合はイーグルスが好調。茂木栄五郎選手が活躍した印象である。応援歌には姓名ともに入っているシファンに愛されている様子が応援している人からもわかる。幸せな新人である。私はと言えば疲れとどちらを応援してもいいという気楽さから3回ころから気が遠くなり始め、隣で熱心にスコアをつけている塚原さんにつつかって気がつくという始末。そこから反省して茂木選手を応援して試合終了を迎えた。イーグルスの快勝だった。

球場入口で集合写真を撮って解散。お疲れさまでした。

……と観戦記録になってない原稿になってしまいました。今回の反省点は人を頼りすぎて仙台という街を調べておかなかったこと。地図をよく見ていれば間違いや迷うこともないのに。仙台市も広い道の四つ辻には通り名の標識を立ててほしい。合同観戦、球場史跡めぐりも参加者の年齢差があると足手まといになりかねない、と思った。特に階段や人の多いところでは遅れがちになり気を使わせてしまう。現実をしっかりと見極めなくてははいけない。地元で見慣れている人は何を言ってる、と思われるような仙台の旅でした。次回は余裕をもって行動したいと思いました。天気にも恵まれいい遠征が出来ました。企画、実行をしてくださった担当の方に感謝です。

帰京してからイーグルスvsライオンズの試合があった。中継の画面を見るといろいろ思い出し懐かしい。座席のシートの色の違うところはレッドの地に白い字が浮き出していた。アルファベットのOだった^(※)。どんな並びでどんな字が続いていたのだろうか。閑散時だったら分かるだろう。イーグルスファンの方は既知だとは思います。

(9月9日)

【※編集担当注】 楽天Koboスタジアム宮城にて、座席上に描かれているのは楽天のロゴマークである「R」。三塁側バイバーシートに描かれています(ちなみに9月の合同観戦時に座っていた座席でもあります)。

真夏の東北vs埼玉対決、三連戦！

塚原 隆(東京都新宿区)

8月に入るとリオデジャネイロオリンピックが開幕し、テレビの報道はオリンピックが中心になってきた。またマーリンズのイチローがメジャーリーグ通算3,000本安打達成を目前にして足踏みし、私たちを“やきもき”させた。結果的に7日(日本時間8日)に三塁打を放ちメジャーリーグ史上30人目の大記録を達成。

一方、NPBのペナントレースでは各球団とも残り試合が40試合前後となり、クライマックスシリーズへ進出するチームも絞り込まれてくる状況になってきた。8月5日より福岡ヤフオク!ドームでは、ホークスとファイターズの首位攻防三連戦が始まった。セ・リーグでも広島でカープとジャイアンツの首位決戦。そして7日より第98回全国高校野球選手権大会が甲子園球場で始まった。8月はテレビでも新聞でもスポーツの話題で満載である。

それにしても連日の猛暑で少しバテ気味だ。私は毎年、この時期は東北に避暑(と言っても東北もけっこう暑いのだが……)。イーグルスの試合日程に合わせて夏季休暇を申請。今年は8月5日からのライオンズ三連戦を観戦。以前にも会報で書いたことがあるが、私はこの対戦カードが好きだ。昨年までの通算勝敗はライオンズの150勝、イーグルスの101勝でライオンズが圧倒的に強い。2013年のイーグルス日本一のシーズンだって9勝13敗とイーグルスが負け越している。今年はライオンズの低迷もあり、初めてイーグルスが勝ち越せそうな感じだ。

8月5日(金)東北楽天ゴールデンイーグルスvs埼玉西武ライオンズ 第18回戦

楽天Koboスタジアム宮城 観衆：18,918人 試合時間：3時間22分

埼玉西武 0 6 2 0 0 0 0 2 0 10

東北楽天 1 0 0 0 0 1 0 0 2 4

L ○菊池-S野上

E ●美馬-小野-宮川

本塁打 ウィーラー21号(菊池)

今年初めての仙台入り。JR仙台駅に着いたら東口と西口を結ぶ自由通路が完成し、見通しが良くなった。そして地下鉄東西線も開通。杜の都は明日から始まる七夕祭りの準備に追われていた。

私はホテルにチェックインし、荷物を預けて早々とスタジアムへ歩いて向かった。スタジアムに入ると新しく完成したグリコスマイルパークの観覧車が目に入った。メリーゴーランドも先日に完成したようだ。コボスタは球場というよりも遊園地みたいになってきた。

この日は平日ということもあり、客の出足は遅かったが、試合開始の18時近くになると内野スタンドは埋まってきた。

グラウンドを見渡すと今年から天然芝になった内野のフィールドがカクテル光線に照らされ鮮やかだ。イーグルス先発の美馬学は立ち上がりに2安打を打たれるが、3番・森友哉、4番・エルネスト・メヒアを連続三振に打ち取り、初回を無失点に抑えた。

ライオンズ先発の菊池雄星は入籍後、初めての登板。立ち上がりは2安打と四球で1点を献上。両投手ともまずまずの立ち上がりだったが、2回表のライオンズの攻撃から美馬学の様子がおかしくなった。

- 5番 浅村栄斗 センター前ヒット
- 6番 栗山 巧 ライト前ヒット
- 7番 渡辺直人 センター前ヒット(打点1)=同点打
- 8番 鬼崎裕司 ライト線二塁打(打点1)=逆転打
- 9番 炭谷銀仁朗 セカンドゴロ=1死
- 1番 金子侑司 レフト前ヒット(打点1)
- 2番 秋山翔吾 センターへの三塁打(打点2)
- 3番 森 友哉 ライト前ヒット(打点1)



●渡辺・センター前ヒットで同点(8月5日)



●鬼崎・ライト線二塁打を放ち逆転(8月5日)

2回に7長短打で一挙6点をとったライオンズは一気に試合の流れを決めた。イーグルスファンからは大ブーイングだったが、梨田監督は美馬学を降板させなかった。

美馬学は3回にも2点を追加されたものの、4回、5回、6回は持ち直し、107球を投げ11被安打8失点で降板。2013年のシーズン終盤のときの様な神ががりのピッチングの復活を期待したいものだ。

試合は菊池雄星と野上亮磨のリレーで三連戦の初戦はライオンズが勝利した。



●菊池雄星は入籍後、初勝利(8月5日)

8月6日(土)東北楽天ゴールデンイーグルスvs埼玉西武ライオンズ 第19回戦

楽天Koboスタジアム宮城 観衆：21,747人 試合時間：3時間21分

埼玉西武 200 000 111 5

東北楽天 200 410 00X 7

L ●十亀-武隈-大石-小石

E ○則本-ミコライオ-S松井裕

本塁打 島内3号(十亀)、浅村15号(ミコライオ)

スタジアムに行く前、市内の七夕祭りをのぞきに行った。あまりにも凄い人出なので、思い通りに歩くことが出来ない。七夕祭りは今日から8日までの3日間、220万人の人出を予想しているそうだ。暑いし、人が多いし、七夕祭りは早々と抜け出してスタジアムに向かった。

今日はライオンズのビジター観戦デーだ。はるばる所沢からレオも応援に駆け付けた。レオとクラッチとクラッチーナと一緒に記念撮影。私はイーグルスとライオンズの来場登録を済ませR2ゲートからスタジアムに入場。

イーグルスの先発は則本昂大。今日はイーグルスが勝ちそうな気がした。ところが立ち上がりが良い。先頭打者の金子侑司を歩かせ、秋山翔吾にライト前に運ばれさらに森友哉に歩かせ無死満塁のピンチ。4番の山川穂高を三振に打ち取るも、5番の浅村栄斗に犠牲フライを打たれ金子侑司が本塁生還。さらにライトのカルロス・ペゲーロが悪送球し、二塁走者の秋山翔吾までが生還し2失点。

その裏、イーグルスの攻撃は打線がつながりライオンズ先発の十亀剣から2点を取り、2-2の同点。試合の展開としては面白くなってきた。両先発投手も2回、3回は無失点に抑えたが、4回裏のイーグルスの攻撃。銀次にライト前ヒット、ジャフエット・アマダーと嶋基宏を歩かせ一死満塁で1番の島内宏明を迎える。カウント1-1からの三球目、高めの直球を振り抜いた。打球はライト方向へ飛んだ。犠牲フライとしては十分な飛距離であったが、1塁側内野スタンドから見ていた私からはフェンス手前で捕球されると思っていた。ところがフェンス手前でライトを守っていた金子侑司がしゃがりこんだ。ライトスタンドギリギリに入る満塁ホームランだった。打った島内宏明はダイヤモンドを物凄い勢いで走り抜けた。

4点の援護を受けた則本昂大は7回を投げ(投球数は114球)12奪三振でマウンドを降り、キャム・ミコライオと松井裕樹に託した。



則本昂大は今シーズン10勝目、しかもルーキーイヤーから4年連続の2桁勝利だ。松井裕樹も20セーブ目を上げ、イーグルスらしい勝利を収めた。

この日の仙台市内は七夕祭りの影響でどこのホテルも満室状態。仕方なくJR仙石線で松島海岸まで行き、宿をとる。夜の松島は人影もなく、ひっそりとしている。何しろ駅前

●島内宏明の満塁ホームラン(8月6日)



●則本昂大は4年連続二桁勝利(8月6日)



●松井裕樹は20セーブを上げる(8月6日)

とはいえ、コンビニ1件もない。宿に着いたのは午後11時になっていた。「すみません、こんな遅い到着で……」という宿のオーナーは「最近では“嵐”のコンサートなんかがあると、こちらの方まで宿泊客が流れてくるんですよ。お客さんの到着時間が12時を回ることもありますよ」と言ってくれた。

松島は水族館がなくなってしまう、訪れる子どもたちも少なくなったようである。

8月7日(日)東北楽天ゴールデンイーグルスvs埼玉西武ライオンズ 第20回戦

楽天Koboスタジアム宮城 観衆：26,321人 試合時間：3時間33分

埼玉西武 0 30 000 010 4

東北楽天 200 000 40X 6

L ●高橋光ー野田ー牧田ー小石

E 辛島ー宮川ー○西宮ーHミコライオーS松井裕

本塁打 なし

正直言って、この日の試合は予測がつかなかった。5日は菊池雄星、昨日は則本昂大と力のある投手に軍配が上がった。イーグルス、ライオンズともに投手陣のやり繰りに苦勞してBクラスに低迷している。辛島航、高橋光成、果たして今日はどちらに軍配上がるか。

その高橋光成は初回に2点を取られるも、2回にライオンズの下位打線が2死から4連打で3点を取って逆転。その後、高橋光成は6回まで安定的なピッチングが続いた。

試合が動いたのは7回裏だった。先頭打者の聖澤諒に二塁打を打たれ、藤田一也が送り1死三塁。ここで9番の嶋基宏を迎えた。

1ボールからの二球目、スクイズだ!

高橋光成はグラブトスをしたが、本塁への送球はそれてしまった。三塁走者の聖澤諒は本塁に生還し同点となった。嶋基宏はその間に二塁まで到達。記録上は投手・高橋光成の野手選択と失策がついた。高橋光成はここで降板し、二番手のルーキー野田昇吾にマウンドを



●嶋基宏。スクイズ(8月7日)



●聖澤諒が本塁生還で同点(8月7日)



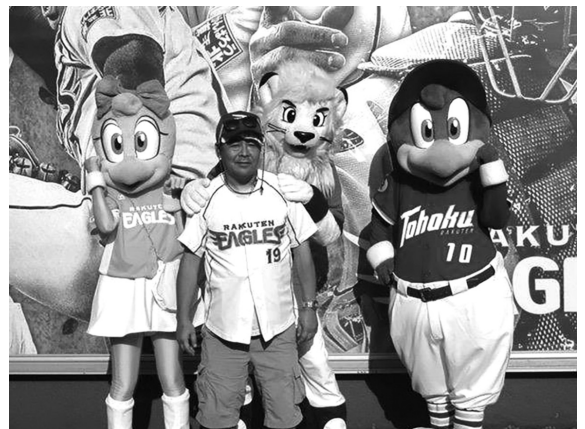
●ルーキー・茂木栄五郎の勝ち越しタイムリー(8月7日)

譲ったが、島内宏明にライト前に運ばれ、さらにルーキーの茂木栄五郎。ルーキー対決となった。「もぎっ！もぎっ！もぎえいごろう！」とスタンドは大合唱。0-1からの二球目をセンター前に弾き飛ばす、勝ち越し打である。イーグルスはこの回に4点を取り試合の流れを決めた。

イーグルスは、最後は松井裕樹で締めてライオンズから今季11勝目を上げた。今年は球団創立以来、ライオンズに勝ち越すことが出来るチャンスでもある。何とか3位に食い込みクライマックスに駒を進めることが出来るか。期待したい。

またライオンズは西武ライオンズとして創立の年である1979年以来の最下位への転落も冗談話ではなくなっている。特に打線の奮起が求められる。

(9月12日)



●クラッチーナ、レオ、クラッチと一緒に(8月6日)